



おおにしの笑顔

第10号 令和2年10月26日 文責 恩田

- ⑥ もいやりのある正しい子
- ⑥ おきな声であいさつする子
- ⑥ にんたい強くかしこい子
- ⑥ しっかり体をきたえる子

あきらめず 笑顔でおわった 運動会

10月21日に運動会が行われました。コロナ対応ということで、学年ブロックごとの縮小したミニ運動会で、しかも、入場にも制限を設け、観客がいつもより少ない中で行うものでしたが、子供たちは全力を尽くして頑張っていました。「あきらめず笑顔でおわろう 運動会」というスローガンの通り、どの子どもさわやかな笑顔で終えることができました。

練習の段階で、「観客は少ない、またはいないかもしれない。でも、誰かが見てるから頑張るのではない、自分のために、自分たちのために、一生懸命頑張ろう。」と話してきました。「全力で頑張ること、仲間と協力して1つのものを作り上げることの素晴らしさ・達成感を学んで欲しい。一生懸命頑張る姿は美しい。」と、指導をしてきました。練習と本番を通して、子供たちは心も体も成長できたと思います。

保護者の皆様には、子供たちの体調管理と当日の制限のある応援についてのご協力を、本当にどうもありがとうございました。



1年表現「ジャンポリミッキー」



3年表現「パプリカ」



2年表現「シャオイーシャオ」



4年表現「ともにやってみよう」



5年表現「ソーラン節・ジンギスカン」



6年表現「集団行動」

様々な防災教育の取組

学校では、感染症予防の他にも、様々な災害から「自分の身は自分で守る」ための防災教育を継続的に行っていきます。10月は以下のような取組をしました。

1. 不審者対応避難訓練

警察の方を招き、3年4組の教室に不審者が侵入したという想定で行いました。不審者への対応・避難ともに、全員が真剣な態度で取り組み、4分45秒で全校の避難が完了しました。

2. 避難所体験

避難所体験については、以下のように10月13日の上毛新聞に掲載されました。とても貴重な体験と

なりました。

大泉町の同校で、災害時を想定した避難所体験を実施した。児童らは実際に、体育館に設置された避難者向けのテントに入ったり、段ボールベッドで休んだりした。写真。

テントや段ボールベッドなどは、9日に町安全安心課の職員らが、災害時に速やかに設置できるように訓練していたもの。児童らは、サーモグラフィで検温も体験した。大泉町内の全小中学校の校長が見学した。

4年の増田虹心君は「避難所にはテントやベッドがあつて、もしものときも安心だなと思つた」と感想を話した。恩田校長は「テレビで見ると実際に体験するのは違う。今日の貴重な体験を保護者や地域のみなさんに話してほしい」と述べた。

大泉 段ボールがベッドに 西小児童が避難所体験

社会の授業の一環として、大泉西小(恩田弘子校長)は13日、大泉町の同校で、災害時を想定した避難所体験を実施した。児童らは実際に、体育館に設置された避難者向けのテントに入ったり、段ボールベッドで休んだりした。写真。